

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277100927		
法人名	社会福祉法人峰栄会		
事業所名	さぎの宮グループホーム		
所在地	浜松市東区小池町38-1		
自己評価作成日	令和4年 3月 7日	評価結果市町村受理日	令和4年 4月 13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和4年 3月 16日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

4階にグループホームがあり、晴れた日には富士山が見ることができる。基本方針に「共に生きる」「個別性」を掲げており、個々にあったケアを行っている。感謝心を大切にし、毎日たくさんの「ありがとう」を伝えている。水分補給をこまめに行っており、水分摂取量には自信がある。コロナが流行してから、マスクの着用・手洗い・手指消毒を利用者も一緒に実施し、感染対応を行っています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍のため外出や買い物に出掛けることが出来ていない。グループホームは法人施設の4階にあり直接の確認はできなかったが、広々としたベランダ空間や花壇がある。天気の良い日には遠く富士山が見える立地である。花壇で草取りや花を植えたりして外の環境に触れることを心がけている。施設全体の理念目標に加えてグループホーム独自の目標を掲げ、職員全員が目標達成できるように努めている。水分補給には自信を持っており、便秘予防に役立つような各種の飲み物において水分補給を促している。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根差した施設を基本理念・基本方針とし、職員全員が周知している。目標管理シートに理念・方針をもとに職員個々に目標をたて、1年間実施している。また、買い物時には、近所のスーパーに買い物に出かけている。	法人全体の理念を基にグループホーム独自の目標を掲げている。目標管理シートを作成して各自で達成できたかの確認を行い、年2回の面接で結果から独自の目標の達成度を確認しており、反省や次の目標の指標としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、利用者との外出はできていないが、週2回近所のスーパーやドラッグストアに買い物へ出かけている。また、施設全体として、まごころ弁当配食で配食サービスを毎月1回実施している。	今現在、外への外出はできておらず近隣住民との交流もできていない。以前は施設全体でボランティアさんや小学生の体験学習などの来訪があったが、現在は月一回の傾聴ボランティアさんの訪問がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護者教室で認知症について地域に向けて発信をしていますが、今年は包括支援センターの職員のみで実施している。グループホームとしては、毎月認知症の勉強会を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や運営推進委員の方が集まっの運営推進会議は実施しておりませんが、書面開催にて利用者の様子や感染症、事故報告等を行い、意見を伺い、サービスにつなげている。	書面開催ではあるが家族や自治会長、民生委員や地域住民が委員としている。また、以前入居していた利用者の家族も運営推進委員として参加をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の会議録を市役所の担当へ提出し、取り組み内容を報告している。	運営推進会議での参加や議事録の郵送で連携を図っているが、グループホーム内での問題などは施設全体で話し合う機会を持っているため、直接市役所に出向くことは今のところされていない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設として身体的拘束適正化委員会があり、毎月身体拘束について研修を行っている。また、身体拘束0宣言をしている。	年3回身体拘束強化月間があり行動制限をしていないか、スピーチロックをしていないかなどの振り返りを行っている。言葉の言い換えとして「〇〇が終わったらいきますので少し待っていてくださいますか？」などの言葉に置き換えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設として虐待防止委員会があり、毎月虐待についての勉強や研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて、権利擁護について研修を行っている。また、現在、成年後見人がいる利用者があり、後見人と連絡を取り合っており、情報共有をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約書の内容を家族・利用者に説明し、不安点や疑問点を尋ね、理解・納得をもらえるようにしている。また、解約時にも家族・利用者の話を聞き、疑問が残らないようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	書面で開催している運営推進会議で意見を聞き、運営に反映している。また、オンライン面会や電話連絡をした際に家族の話を聞いている。利用者に関しては、日々のケアの中で希望・要望を伺い、反映している。	直接面会はできていない状況ではあるが、オンライン面会で姿を見たり声掛けができてよかったと家族は喜んでいる。施設全体のパンフレットや便りはあるがグループホーム独自のものは未作成である。	グループホーム独自のパンフレットや便りで利用者の様子などを個々に家族に知らせ、安心につながる方法の検討を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会やサービス会議の中や年3回の面接時に職員の意見を聞き、運営に反映している。	年3回の面会時に職員個々の意見を聞き運営に反映できるようにしている。勉強会では介護技術でむずかしい利用者にはどのようにしていったら良いか、利用者のトイレ誘導の変更の検討などを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートや人事考課・HEK1990を通して、やりがいや向上心を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修にて、学ぶ機会を設けている。また、施設外の研修は、オンラインを使用し、参加する取り組みをしており、研修に参加した職員の報告をうけて学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設間交流や中堅職員研修にて、他施設との交流する機会を作り、サービスの質の向上を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々のケアの中で、利用者の訴えに耳を傾け、不安なことや要望を聴き、安心した生活がおくれるよう関係づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に家族の話聴き、困っていることや不安なこと、要望を聴き、安心できるような関係づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時に本人と家族から経歴を聴き、今必要としているサービスを考え、提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生きるを基本方針とし、入居者の持てる能力を活用し、調理や洗濯、掃除等の日常生活を共に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	オンライン面会時には、本人の日々の様子を伝えている。また、電話連絡時にも本人の状態について家族へ伝え、事故や病気が起こった際、協力してもらえるよう関係づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院や墓参りに出かける支援をしていたが、現在外出の支援はできていない。しかし、馴染みの人からの手紙は利用者に渡し、関係が途切れないようにしている。	コロナ禍で以前はできていた美容院や墓参りの外出は出来ていない。親せきや知人などからの手紙は届いている。家族などの直接面会では距離を取り行なったり、子どもや県外の方はお断りする等状況により対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係を見て座席を決めている。また、寮母室前の椅子で利用者同士が話せるような環境になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	運営推進委員になってもらいこれまでの関係を大切に、必要に応じては相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から暮らし方の希望や意向を聴いている。また、困難な利用者の場合、本人の立場に立って考え、検討している。	コロナ禍で利用者自身の外出が難しい為、買い物などは代理として職員が行い、家族に頼める物はお願いをしている。外に行きたいとの要望がある時は、ベランダに出て散歩を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時に利用者や家族から話を聴いたり、居宅ケアマネジャーから情報を聴いて経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々に合わせた過ごし方ができるよう支援している。また、状態の変化に合わせて職員で話し、臨機応変に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス会議で話し合いをしている。また、問題が起こった時は、出勤している職員で話し合っている。	利用者全員の様子を事前に提出して意見を聞いている。以前出た問題点や変更点は、一か月の様子を確認して改めて話し合っている。全員出席での話し合いは難しいが、話し合ったことは書面において共有し確認を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を業務日誌に記入し、全職員が記録の確認を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	以前は利用者や家族の希望に応じて外出支援を行っていたが、現在は病院受診以外行っていない。しかし、家族と相談し、オンラインでの対応を検討し、実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し、近所へ買い物に出かけている。また、2か月に1回施設に来てくれる美容院を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に定期的に受診をしている。コロナの状態により、主治医と相談し、薬のみ処方してもらっている。	法人ナースとの連携は密にとっており、体調変化にはすぐに対応できる様にしている。内科的なものはかかりつけ医が確認しており、そのほかの受診は以前からの病院に家族対応でかかっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	全体の申し送り時に情報を伝えている。座薬や浣腸施行時依頼している。また、体調不良時や怪我等をした際、連絡をし、処置を実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、医療連携室と連絡を取り、早期退院ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針を説明し、事前に同意を得ている。また、重度化や終末期に近づいたら家族と相談し、意向に添えられるように努めている。	基本的に看取りは行っていないが家族の協力が得られる場合のみ検討するようにしている。食事がとれなくなってきた時や車いすでの生活が難しくなってきた際は主治医を含め話し合いを行うようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	運営規定や契約書に急変時や事故についてあらかじめ示している。また、防災訓練時にAEDの使用方法を学び、訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	9月と11月の総合防災訓練にて、地震や火災時の避難訓練を実施している。	毎月防災訓練を行っている。AEDの使用方法や煙体験、防災設備の確認、貯水槽の使い方などを行っている。年に1回は炊き出し訓練も行っている。ろ過装置の使い方などあらゆる災害に対応できるように訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出勤したら利用者一人一人に挨拶をしている。また、ケアを行う際には、近くで声掛けをし、同意を得てから行っている。	グループホームは利用者の家という考えから、職員は最初の挨拶を必ず一人ひとりと交わすようにしている。排泄誘導には周りに聞こえない程度で「お部屋に一緒に行ってもらえますか」と立ってもらえるような声掛けで誘導に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつ時、本人に選択してもらい提供している。また、決め事があるときには、利用者の意見を聞いて行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	テレビを見たり、居室で横になって過ごしたり、本を読んだり、クロスワードを解いて過ごしており、利用者の希望に沿って対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院は2か月に1回利用している。また、行事の際には、化粧をしたり、髪の毛を編んだりして身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の調理は、利用者の持てる能力を活用し、一緒に調理をしている。また、できる利用者にはご飯やみそ汁を自分で盛り付けてもらい、食後は、自分の食器を洗ってもらっている。	歩行にも気を使い、食事前には必ず洗面台で手を洗い消毒をした後に、自分の食事を運んでもらっている。自分で食べられるだけのごはんとお味噌汁は自分で盛り付け、お茶碗、お箸、湯呑など自分のものは自分で洗っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日誌に食事量・水分量を記入している。また、食事量が少ない利用者には、栄養補助食品を対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前は全利用者の歯磨きを行い、義歯装着者は、ポリドントを行っている。利用者の中には、毎食後にモンダミンと歯磨きを行っている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を1か月ごとと個々でまとめ保管している。また、記録にも残し、排泄パターンの把握に努めている。	できるだけ薬に頼らないように水分は最低でも1200～1600cc飲んでもらうようにしている。お茶だけではなく目先を変えてもらえるように、ココアやレモンティー、スポーツドリンクなども提供している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時、ヨーグルトとヤクルトを提供している。また、牛乳を飲用している利用者もいる。運動は1日に2回みんなの体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個別で対応している。また、入浴拒否時には、無理強いせず、時間を空けたり、日にちを変更している。入浴を楽しめるよう、入浴剤を使用している。	基本的には週2回の入浴ではあるが3回入浴できる週もある。午前対応であるが火曜日、金曜日は午後入浴となっている。利用者の希望に添い、いろいろな入浴剤を用意して気分よく入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団干しやリネンの交換をし、気持ちよく寝れるようにしている。また、足や手が冷える利用者には湯たんぽ対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋と薬一覧表をもとに薬の目的等を把握している。また、利用者の状態変化時には、主治医と相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	クロスワードや塗り絵を行える環境を整えている。利用者のできることできないことを把握し、対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	食事をとりに1階へ出かけたり、ベランダに散歩に行ったり、日向ぼっこができるよう支援している。	近隣への散歩はできていない状況ではあるが、広いベランダに出て散歩や日光浴を行っている。少しずつではあるがドライブに行く機会を増やしてきている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布を自己管理している利用者がいる。理世者が希望するものは可能な限り用意をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から電話や手紙のやり取りはないが、家族等から電話や手紙のやり取りがある場合、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今年は、毎月月にちなんだ壁画を作成し、飾り季節感を感じられるようにした。また、食堂の天井は高くなっている為、広い空間になっている。天窗もあり、日の光が入り明るくなるようになっていく。	春には桜、夏にはスイカなどの野菜や果物、またカエルや傘などの折り紙を作成したり、創作した塗り絵などを壁に掲示している。外出ができないことからできるだけ季節感が出るような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂には、使用していない椅子があり、場所を移動して過ごすことができるようになっている。また、寮母室前の椅子に座り、利用者同士で過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や神棚、ラジカセ等を持ち込んでもらい、居心地よく、安心して生活ができるような環境づくりをしている。	施設の備品としてエアコン、ベッド、ダンス、カーテン、床頭台、洗面台が備えられている。居心地のよい居室となるよう利用者が以前使っていた物を持参してもらっているが、以前使用していたものを持って来る方は減っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりを設置し、利用者の持つ能力を生かせるようにしている。また、本人の身体状況に合わせてベッドや椅子の調節をしている。		